

【ご参考】 大地震等、緊急時のために協会として準備しておくべきこと

－ 水、食糧、薬等の生活関連物資を除く －

困ったこと－事例1： 外部との連絡、役職員との連絡がとれない

- ・ 停電、電話回線の不通により、固定電話、インターネットメールが使えなくなった。
- ・ 携帯電話も非常に繋がりにくい状態が長期間続いた。
- ・ この結果、外部との連絡はおろか、協会役職員の安否すら確認ができない状況になった。
- ・ 唯一使えたのが『携帯メール』。受信までは数時間の遅れがあったが、非常に有効であった。また、携帯でのインターネットの活用で安否情報を確認できた。

準備すべきこと

- ①非常用発電機は、最低限の照明(投光器)、情報入手のためのテレビ、パソコン電源等のためだけでなく、携帯電話等の充電のためにも必須。協会本部に限らず、支部にも常備することが望ましい。

最近ではカセットガスが使えるポータブル発電機も出てきて、扱いが容易になった。



HONDA enepo
100V-900VA
最長2.2時間
価格10万4,790円



三菱「MGC900GB」
100V-850VA(50/60Hz)
定格1時間
価格13万9,800円

- ・ 非常用バッテリー(電力貯蔵用大型リチウムイオン電池セル)も有効だが、業務用はまだまだ価格が高い。
- ②災害時の緊急連絡網の体制整備が必要であり、公用の携帯電話のメールアドレスは、統一したルールで割り付けておく。この場合、年2回程度の抜き打ち的な連絡網確認訓練をお薦めする。
- △ △ △ 1234 @docomo.ne.jp
△ △ △ 5678 @softbank.ne.jp @以降のドメインは異なっても、@の前はルール化しておく。
△ △ △ 9012 @ezweb.ne.jp
- ↑この部分で、ある程度協会名が判別できることが望ましい。
その他に、血液型などを盛り込むのもよい。
- ③役職員等の迅速な安否情報確認のため、携帯電話、インターネット上のYahoo、Google等の安否情報サービスも有効である。
- ④全部の公用車に、シガーソケット用の携帯電話充電器、または100vのインバータを常備する。
移動中にも充電でき、特にインバータはノートパソコンの使用にも便利。

困ったこと―事例2 : ガソリンがなく、全く動けない。

- 大地震の直後は公共交通機関は軒並みダウンする。ガソリンがないことにはどうにもならない。

準備すべきこと

- ①暫定対策として、公用車台数の何台かは、昼休み・終業時等にガソリン満タンをルール化する。
例：公用車が10台の場合、ローテーションを組んで、昼2台、就業時2台は必ず満タンにする。
なお、長距離移動用のガソリン確保のため、20ℓの携行缶（金属製）を5個程度用意しておくとう便利である。
- ②ガソリンの供給が始まって、当初は「緊急車両」に限定される。従って、緊急車両の登録がスムーズに取得できるように検討しておく。
 - 緊急車両の登録には、車検証の写しと、行政機関が発行する支援要請文書、免許証の写し等の添付が必要。このためには、県との協定等に、これらの内容を盛り込んでおくことが重要。
- ③恒久対策として、ガソリンを協会で備蓄する。
 - ガソリンは引火点がマイナス40℃程度で、消防法では危険物第4類、第一石油類（引火点21℃未満）に該当する。一般の事業所で保管できるのは200ℓ未満（ドラム缶1本分）までとなっている。（但し、自動車のタンク中にある燃料は計算に含めない。）
 - 200ℓ未満でも、少量危険物として指定数量の5分の1（ガソリンは40ℓ）を超えた場合は規制を受けるので、その地区の火災予防条例の確認が必要。携行缶の多量貯蔵は注意が必要。

■ガソリンを保管する場合は、下記のような注意が必要。

 - 風通しが良い、涼しく火気のない場所（ゲージ内が好ましい）
 - 施錠は必須（ガソリンを抜き取られる例が多発）
 - 避難時の支障にならない場所
 - 冬季は、静電気防止対策に十分注意

長期的には、資金、敷地、資格等を勘案のうえ、200ℓを超える危険物貯蔵所を設置することも検討する必要があるかも知れません。この場合は、近くの消防本部に相談してください。

困ったこと―事例3 : 事務所の倒壊等によるデータベースが失われる。

- 事務所の倒壊等により、サーバーが破損した場合、データベースの復旧は困難である。

準備すべきこと

- ①パソコン（サーバーを含む）のデータバックアップを定期的実施することをルール化する。
- ②バックアップ装置（バックアップ用レンタルサーバーを含む）は、データ喪失のリスクを最小限にするため、事務所と違う場所等に分散させておくことが必要。